

イスラエルによるカタールなど諸国の主権侵害を、きびしく非難する声明

イスラエル軍は、9月9日、停戦交渉のためにカタールの首都ドーハを訪問中だったパレスチナのイスラム組織ハマスの幹部を標的にした空爆を行ったと報じられている。

ハマスによると、パレスチナ自治区ガザの停戦交渉で交渉団のトップを務めるハリル・ハイヤ氏の息子らメンバー5人が死亡した。また、カタール治安部隊要員一人も犠牲になった。

イスラエルメディアによると、軍は数か月前からカタールに滞在するハマス幹部への攻撃を計画していた、と報じられている。

諸報道から、米国は、事前にイスラエルより通報を受けていたとみられる。

カタール外務省は、同日、「国際法と規範の明白な違反であり、国民と居住者に対する深刻な脅威だ」と強く非難した。

また、国連のグテレス事務総長は「カタールの主権と領土保全に対する露骨な侵害」と強く非難した。エジプト大統領府、サウジアラビア外務省もイスラエルを強く非難した。

9月末、トランプ米大統領に促されたネタニヤフイスラエル首相は、カタール外務省に謝罪した。

わたしたち「米軍基地をなくす草の根運動」は、対米独立と日本の主権回復を強く求める立場から、イスラエルとそれを支援する米国のパレスチナ特にガザ人民へのジェノサイドを強く非難するとともに、両国によるレバノン、シリア、イラン、ヨルダンなど中東諸国への主権侵害の攻撃をも強く非難する。

不戦・戦力不保持の憲法を持つ国、対米従属の国の民衆運動として、全世界の民衆に対して、イスラエルとそれを強く支援している米国の主権侵害を非難するよう呼びかける。

2025年9月30日

沖縄日本から米軍基地をなくす草の根運動